



兵庫の建築
Architecture of
HYOGO

写真：(公財)但馬ふるさとづくり協会様 提供

やぶ市民交流広場 (愛称YBファブ) 令和4年度「第24回人間サイズのまちづくり賞」

竣工年 2021年

所在地 養父市八鹿町八鹿

複合公共施設(文化施設)やぶ市民交流広場(愛称YBファブ)は、八鹿公民館と八鹿文化会館の老朽化、耐震診断で阪神・淡路大震災クラスの地震で倒壊の恐れがある為、養父市が代替施設の建設を決定し、旧グンゼ八鹿工場跡に新築移転しました。ホール棟と図書館棟に分かれており、貸し会議室や調理実習室など公民館機能はそれぞれの建物に分散配置され、ホール・音楽スタジオなども入っています。YBファブの建設にあたっては、コンストラクションマネジメント方式(CM方式)が採用されました。市民会議を16回も行い、市民の意見を取り入れた設計になっています。また養父市の文化と周囲の景観との調和も重視して、当初の設計では金属葺きの屋根だったものを、地場製品であった「八鹿瓦」の色に合わせた瓦葺きに変更しました。八鹿瓦のルーツである島根県の石州瓦工場や産業技術センターの協力を得て八鹿瓦を再現し、6万枚の瓦葺き屋根のYBファブが完成しました。市民の思いや、養父市の歴史と現代の技術が融合して建設されたYBファブをぜひご覧ください。

文・写真：佐々木 秀行(南但支部)



YBファブの横には広い芝生広場があり、市民の憩いの場になっています



図書館の柱には合併前の旧4町の町花があしらわれています



図書館の壁には養父市産の木材が使用されています

| | | |
|----|-------|-------------------------------|
| 目次 | P.1 | 兵庫の建築・やぶ市民交流広場(愛称YBファブ) |
| | P.2-3 | 2024年 第15回高校生の「建築甲子園」全国大会兵庫予選 |
| | P.4 | 手描きパースセミナー事業報告 |

メール配信と名簿のご案内
「集 tsudoï」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



第15回 高校生の「建築甲子園」兵庫予選 選考報告

■テーマ「地域のくらしーまちに住む・地域に開く住まい（戸建て）」

本年の建築甲子園には7チームの応募があり、いずれも若い熱意の溢れる作品が揃いました。全国大会に進出できるのは1チームですが、この設計競技に挑戦してくれた全ての皆さんの努力を称えらるとともに、ご指導いただいた先生に感謝申し上げます。制作の過程で仲間と共に考え、紡いだ言葉、流した汗は必ずや皆さんの人生におけるかけがえのない経験となることでしょう。

優秀賞の「坂に根を張る小さな職宅」は、提案力、設計力、表現力、全てにおいて優れ、審査員全員から高評価を得ました。2位と3位は僅差で、「御旅所の家」「350の戸建て～」の順となりました。なお、本年から必要図面が具体的に細かく設定されました。これは、設計という行為がクライアントの希望や、敷地条件、社会条件を深く考察し、それを纏めて建築に具現化するものであり、こうしたコンペにおいても、与えられた条件を適格に把握し、図書を完成させる力に期待するためです。今後も、皆さんの挑戦を楽しみにしています。

総評：正木 恵子（兵庫県建築士会会長）

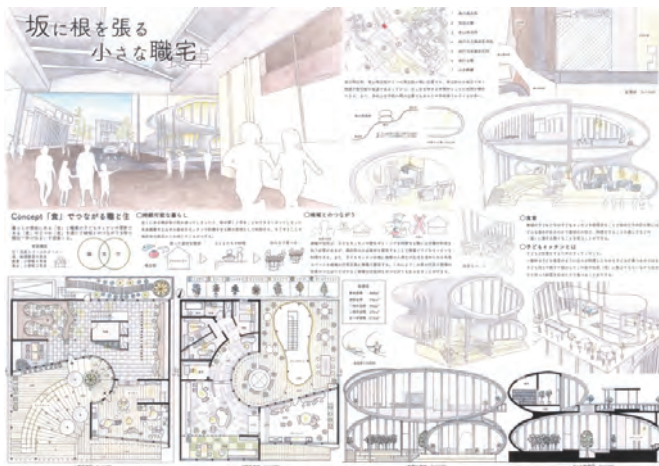
■審査委員会

| | | | |
|-------|--------------|--------------|-----------------|
| 審査委員長 | 正木 恵子（会長） | | |
| 審査委員 | 西嶋 宣久（副会長） | 橋本 育子（副会長） | 岸野 裕児（まちづくり委員長） |
| | 榎本 光展（研修委員長） | 高麗 憲志（青年委員長） | 有國 智都子（女性委員） |

※ 2校7作品の応募の中より優秀賞1作品を選出しました。

優秀賞 国立明石工業高等専門学校 大西 蒼依 薦田 京五 高慶 莉紅 松尾 拓哉

坂に根を張る小さな職宅



下町的な商店街近くの坂道をうまく取り入れ、学校帰りの子どもたちや地域住民が立ち寄れるキッチンを中心に、食育やフードロスなど食に関する学びや地域との交流を深められる開かれた住まいとなっている。コンセプトの一つである職については少し印象が薄いですが、SDGsの視点のある有用性と地域の活性化にも繋がる話題性も感じられ優れた提案力が高く評価された。

表現力においては、イメージが強く具体的な平面断面の繋がりがやや解かりにくい事、また食材の搬入ルートやバックヤードなどが示されれば尚良かった。二つの商店街の間に建つ目を引く外観となっているがどのような構造になるのか興味深い。

作品講評：橋本 育子（副会長）

奨励賞 国立明石工業高等専門学校 石原 淳之介 井本 百萌 山本 文遥



350の戸建に住んで350の空地に開く

まずは、生野高原という、700区画の半数が分譲され、残り半数が空地である戸建団地の空地活用というテーマ設定が非常に独創的である。

その活用手法として「職」という要素を加え、「街に開く」という展開も秀逸であると感じた。色調を整え、アイコンなども多用したプレゼンテーションも、実に爽やかな印象を抱いた。

強いて言えば、職と街の連続性やその賑わいのシーンがよりいきいきと表現されていればなおよかったのでは、と思われる。

作品講評：榎本 光展（研修委員長）

奨励賞 国立明石工業高等専門学校

林田 隆利 藪内 大翔

一期一inn ～地域の交差点～



姫路駅と姫路城を結ぶ大手前通りの中央付近と言う好立地の空き地向き合った作品である。地域のくらしーまちに住む・地域に開く住まい(戸建て)をテーマにした今回の要領の中で、地域融合型のゲストハウスの提案である。ゲストと地域がコミュニティ空間を計画することで融合させていくアイデアや表現は評価できる。オーナーがまちに住み地域に開けた戸建て住宅に住むことがどのように周囲環境に影響させるか期待できる作品である。

作品講評：岸野 裕児 (まちづくり委員長)

奨励賞 国立明石工業高等専門学校

岡田 紬季 佐藤 澄海 土田 琴春 原田 朱里

バッタリの下でぱったり - 岩屋に開くみちの商店街 -



建築のファサードに変異性を持たせることで、狭い敷地や細い通りにおいてうまく住居と店舗を結び付けた、まさにまちに開く案である。伝統的な建具から着想を得たアイデアには好感が持てるが、それを現代に発展させた使い方やデザインの提案がほしかった。また、賑わっている様子を示すパースや外構計画、あるいは模型写真など、アイデアをより魅力的に表現する材料があれば良かった。

作品講評：高麗 憲志 (青年委員長)

奨励賞 国立明石工業高等専門学校

後藤 歌子 辻山 結愛 福永 凜紗 山本 結友

御旅所の家 ～神と人が立ち寄る場所～



神様の立ち寄る場所と課題「戸建て住宅」との関係が不明、敷地提供している事以外の意図を理解して頂くための工夫をもっと突っ込んで頂きたい。図面として細かいところになるが配置の平面位置と二階平面位置が上下合っていないのがとても気になるのである。設計図を描いているということにもお気遣い頂ければもっと良い。全体的にはまとまりのある素晴らしい作品。

作品講評：有國 智都子 (女性委員)

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校

中村 玲希 熊木 花蓮 高谷 虎太郎

暮らしと遊ぶ街 ～私たちの夢が詰まった建物～



小さなエリアに3つの異なるテーマを持った複合施設である。大規模でないコンパクトなスケールでまとめているのは、さまざまな年齢や趣向を持った人々が交流するきっかけとなるであろう。カラフルな表現に提案者の気持ちが伝わってくる。平面図等の配置を揃えれば層状の空間の位置関係が伝わりやすかったと思う。またパースの中に人物や備品を書き加え設計主旨がより直感的に伝わるようにすれば良かったと思われる。

作品講評：西嶋 宣久 (副会長)

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校

時本 煌也 藤井 琉成

太陽と海 ～海のリゾート施設～



自然豊かな地域の特性を生かした作品である。複合的な施設を設けることで、様々な人が出会う可能性を秘めた計画は評価できる。小規模な複合施設として、少子高齢化の時代の流れの中で今後可能性のあるジャンルの計画と考える。表現方法としては、黒バックであるので並んでいる図面などの配置を揃えたり人物を描き内容が直感的にわかるようなパースにすればさらにすっきりとしたプレゼンテーションとなったと思われる。

作品講評：西嶋 宣久 (副会長)

■コミュニケーションとしてのパース表現

青年委員会では例年「手描きパースセミナー」として、様々なパースの講師をお招きして実践的な演習形式でセミナーを行っています。昨年までは外部からプロのパース作家を講師としてお招きしていましたが、今回は身近な内容をより気軽に体験できる講習にしたいと考え、新たな試みとして阪神支部に所属し前青年委員長の阪本剛史氏を講師に招きました。また例年、年に1度の開催で時間が限られており、基礎から応用まで一通り学ぶということができませんでしたが、今回は全2回の開催とすることで、基礎編から応用編まで一通り体験できる内容のセミナーを計画しました。

2024年10月5日(土) 13:00～16:30 神戸市教育会館 203号室にて第1回手描きパースセミナー「コミュニケーションとしてのパース表現」を行いました。

まずはパースの基礎的な内容の講義から始まり、いくつかの建物の外観やインテリアの写真をしながらトレースし、着色まで行うことで、パースの描き方や着色の方法などを実践的に学びました。

最後は座席の前後左右で二人組になり、お互いの好きな空間、過ごしたい空間をヒアリングしながら、パースとして仕上げていくという課題でした。この内容はまさに施主を前に、どんな建物にしたいか、内装のイメージをヒアリングしながらその場でパースを描き、施主と共にイメージを共有し、より具体的にしていくという、非常に実践に役立つ課題でした。私は講師の阪本氏とペアで行いましたが、自分以外の施主に対するヒアリングの方法やパースの描き方、着色の方法を間近でみることができ、普段ではできない体験をすることができました。

今回のパースセミナーは15名の参加者があり、小学生から実際に講師もされている方まで年齢層も幅広く、また京都や和歌山からもご参加いただき、様々な参加者にめぐまれて、非常に充実したパースセミナーとなりました。

■伝わるパース表現 スケールと奥行き

12月7日(土)に第2回目として「伝わるパース表現 スケールと奥行き」を開催しました。今回は参加者12名と前回より若干少なめでしたが、6名の学生の方の参加がありました。

また、約半数が前回から引き続き参加していただいた方で、2回のセミナーを通して味のある手描きパースのコツのようなものを身につけられたのではないかと思います。

青年委員会では、次年度以降も引き続き本事業を開催していく予定で、より多くの方々に参加いただきたいと思います。

文・写真：高麗 憲志 (青年委員長)



第1回セミナーの風景



課題の作品講評



第2回セミナーの風景

令和6年10月5日

令和6年12月7日 開催